

# 告知板

## 日本機械学会 第七十一期全国大会

会期 平成五年十月二日(土)～五日(火)  
会場 広島大学西条キャンパス  
(工学部、生物生産学部、総合科学部)ほか

日本機械学会は、四万五千人を越える会員を擁する理工学分野で我が国最大の学会であり、機械工学と工業を代表する基幹学会として、国内的及び国際的にも幅広い活動を行っている。

今回、平成五年度の全国大会が西条キャンパスを主会場に開催される(大会委員長 山之内道徳【マツダ(株)専務取締役】、実行委員長 鳴瀬則彦【広島大学工学部教授】)。毎年多数の参加者を得、本年も延べ二千五百人の参加が予定されている。二日(土)と四日(月)は機械工学に関する学術講演会が開催され、千件以上の講演発表と討論が繰り広げられる予定である。三日(日)は、一般市民の参加も呼び掛け、広島県民文化センターにおいて特別講演会と先端技術公開講演会が企画されている。五日(火)には、見学会を行う。

また、会期中は、工学部において先端機器やカタログの展示会が開催され、企業内容が広く紹介される予定。関心をお持ちのイベントへ多数ご参加ください。

問い合わせ先：  
日本機械学会第七十一期全国大会実行委員会(広島大学工学部内)  
電話 (〇八二四) 二四一七五三三

## 日本分析化学会 第四十二年会

日本分析化学会第四十二年会が十月五日(火)から七日(木)までの三日間、広島大学西条キャンパスで約二千名の参加により開催される。

最近の分析化学に関する一般研究発表六百三十八件、各種研究懇談会特別講演十四件、学会賞等の受賞講演九件などが行われるほか、併催されるシンポジウム、ワークショップ、展示会は一般にも公開(入場無料)され、次のように行われる。

### 【シンポジウム】

テーマ 「宇宙、生命、未来」  
「分析化学二十一世紀への期待」

日時 十月五日(火)  
十三時三十分～十七時  
場所 総合科学部講義棟特別会場  
【ワークショップ】

内容 分析機器メーカーなどによる最新の分析技術・分析機器の紹介、講演など  
日時 十月五日(火)十時～十五時  
十月六日(水)十時～十二時

場所 総合科学部講義棟w会場  
【展示会】

内容 最新の分析機器並びに関連分野の製品の展示  
日時 十月五日(火)～七日(木)  
九時三十分～十七時  
(但し、七日は十四時まで)

場所 西体育館  
問い合わせ先：  
理学部分析化学講座内  
日本分析化学会第四十二年会

## 実行委員会

(実行委員長 熊丸尚宏)  
電話 (〇八二四) 二四一七四二四

## 一九九三 分子構造総合討論会

国内・外から約千名の研究者が集まり、分子の構造・分子の電子状態・物性化学・化学反応論など現代物理化学の最重要分野とその応用分野に関する研究発表が行われる。

例えば、最近注目されている有機磁性物質・超伝導物質の研究、あるいはレーザーやスーパーコンピュータなどを駆使した最先端の研究約六百件の成果が発表される予定である。

なお、本学からは、理学部化学科物理化学系研究室を中心に多数の研究発表が予定されている。  
会期 平成五年十月八日(金)～十二日(月)  
会場 総合科学部  
問い合わせ先：  
理学部化学科 林 通郎  
電話 (〇八二四) 二四一七四〇九・七四二〇

## 日本放射線影響学会 第三十六回大会

日本放射線影響学会第三十六回大会が、十月二十七日(水)から二十九日(金)まで、メルパルク広島(市民球場隣り)にて開催される。日本放射線影響学会は、原爆被災及びビキニ水爆実験被曝事故を契機に、放射線の人体に与える影響や環境汚染問題を解明することを目的として、昭和三十四年に設立され

た。当学会の特徴は、何といっても放射線の生物影響研究が学際的な領域であるため、医学・生物学はもちろん、物理学・化学・薬学・農学・工学等幅広い分野の研究者が一堂に会して、研究発表や討論が行われる点にある。

今回の大会では、シンポジウムの第一の柱に「放射線の遺伝的影響の中で多因子性疾患をどう扱うか」というテーマを掲げ、親の放射線被曝が子孫に影響することはあり得るのか(特に発癌を中心に)という問題を討議する予定である。この問題は、原爆被曝二世・三世の問題に関連しており、放射線影響の研究者の間で非常に議論を呼んでいるテーマの一つである。また、そのほかに二つのシンポジウムを設定し、放射性物質による環境汚染問題と、医学・生物学のさまざまな分野でホットな話題となっているアポトーシス(自爆死)研究の現状についても放射線影響との関連から討議が進められる予定である。

さらに、学際的な研究領域のなかで、異なる分野に親しんでいただくための教育講演(毎日朝に一題ずつ計三題)や海外からの著名な研究者を招いての特別講演(今回はワシントン大学の「L. Roti Roti」教授にDNAの高次構造と哺乳動物細胞の放射線感受性について講演していただく予定)も行われる。

また、一般演題も原子・分子のレベルから宇宙に至るまで、広範な分野から約三百題が寄せられており、そのほか、低線量放射線に対する生物の適応応答(有益効果)や、粒子線に関するワークショップなども企画されている。

## 学園都市づくり シンポジウム

東広島市は、人間と自然の調和のとれた学園都市を目指して、まちづくりを積極的に推進しているが、二十一世紀を目前に控え、国際化、高齢化、高度情報化といった時代の潮流に配慮しつつ、豊かな自然や伝統を生かしながら、文化性の高いまちづくりを実現するための計画を現在策定している。

計画策定の作業の一環としての意見交換、及び大学と地域が一体となったまちづくりを進めるための意見交換のため、シンポジウムを開催する(左表)。

日時 十月四日(月)  
十三時～十六時三十分  
場所 サンスクエア東広島  
アザレアホール  
学長講演 「都市と市民と大学—イタリヤ大都市の経験から—」  
主催 東広島市  
学園都市づくり交流会議  
(助)東広島市教育文化振興事業団  
広島中央テクノポリス建設促進協議会

時刻	構成	出演者
13:00	挨拶	東広島市長 讃岐照夫
13:10	講演	広島大学長 原田康夫
14:00	基調報告	東広島市企画管理部長 瀬尾登之
14:20	パネルディスカッション	[コーディネーター] 広島工業大学教授 門田博知
		[パネラー] 広島大学長 原田康夫ほか4名
15:50	意見交換	